

週刊

# 世界と日本

昭和47年4月10日創刊  
 発行所 〇内外二ユーエス  
 東京都千代田区永田町2-10-2  
 〒100-0014 電話(03)3580-1254(4F)  
 FAX(03)3580-1070  
 E-mail: naigai@g3.so-net.ne.jp  
 URL: http://naigai.cside6.com/

代表者 清宮 龍  
 発行人 千葉 榮  
 毎月10日発行  
 購読料送料とも前納15,750円(消費税込)  
 郵便振替口座 00190-7-54604

目次
2面 モノ言外資強まる日本市場・門倉貴史
3面 台頭するアジアのコンテナ港・石井伸一
4面 どうなるイタリヤ政権……池谷知明
5面 再生かけのシャッター通り……細野助博
6面 「どろり」プチみゆしあむ……山岡啓吾
7面 マスメディア批判・本間寿美・中西克賢

## 中国四川 封印された核拠点崩壊？

北京オリンピックを目前に、本年5月12日に、中国の奥地でマグニチュード8.0の大地震が発生した。日本のメディアが、悲惨な震災や人道支援を報じる一方で、四川が核兵器開発の拠点であることを私は知った。地震直後に、週刊誌やテレビ局の記者から、その地の核施設への地震影響の問い合わせがあり、急ぎ、関係情報を収集した。その結果、中国の核兵器の設計、製造、備蓄のための主要拠点は、被災した四川の地震区域にあり、西側の専門家たちは、放射性物質が漏洩しうる損傷の兆候を探していることが判明した。

札幌医科大学教授 高田 純



震源から250キロの距離だが、5月25日の最大余震マグニチュード6.4の震源地青川からは50キロ近い。四川地震の震源から北東方向およそ120キロ、高度な耐震機能があればよいのだが、川が封印されていた。世界の核災害を調査してきた筆者には、同様な事態が、中国でも発生しているのでは、と想像している。平和の祭典であるオリンピックの主権国には、自国

## 西側専門家、放射能漏洩兆候を探査

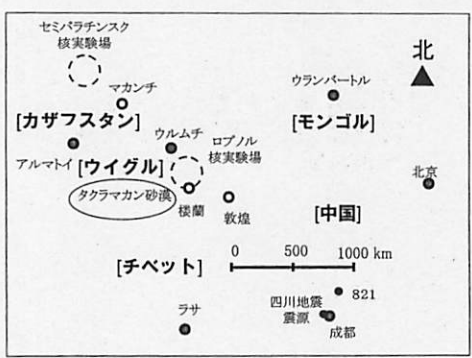
## 過去実験でシルクロードに「核の砂」

発表はないが、崩壊した施設周辺での防護服の着用が義務づけられている。部隊の写真を含む複数の情報を含め、一部は小型だが研究用原子炉があり、今回の地震で生じた断層から50キロ近い。当時、原子炉が稼働していたか

民への責任はもろろんだが、国際的にも説明がほしい。さて、私の終生の研究対象である核爆発災害の研究は、広島から始まり、セミパラチン、実験場は、ロプノル(プールの北西付近にある。その湖は、彷徨える湖)として有名な

《たかだじゅん》弘前大学理学部物理学科卒。広島大学大学院理学研究科・博士課程前期修了。同後期中退。鐘化学工業中央研究所シカゴ大学ジェームズ・フランク研究所、広島大学原爆放射線医学研究所、京大原子炉実験所などを経て、平成16年より現職。著書に「世界の放射線被爆地調査」(講談社ブルーバックス)など多数。

が地表と接触する最も危険な地表核爆発と分る。絶えずその姿を変えてきた。その地域に類される3回のメカトンは、昔、シルクロードの交易で栄え、実験場の南端に楼蘭、東方400キロ先は、仏教壁画、舞い上がった核の砂が、



で有名な敦煌がある。当時のソ連は、中国の核実験を監視していたことが、カザフの報告から分かった。1964年から96年までに、延べ46回、総発出力がおよそ20メガワットの核爆発が行われた。報告書の実験年表には、それによると、線量は、胎児影響がありえるレベルであった。76年の4メガトン実験は11月のため、カザフへの発高度が記されている。驚いたことに、火球

2面に続く

## 1面の続き

影響はなかった模様である。しかし、北風を受けて南方のチベットへ影響したのではないかと、筆者は、地表核爆発後の放射性物質が降る風下地域の人たちが受ける線量を、予測計算する方法RAPSを開発した。これまでに、核兵器テロ対策や北朝鮮の核実験の監視に役立ってきたが、07年から中国の核実験の核放射線影響を計算してきた。

3回のメカトン級核爆発後、風上核の砂が降った地域に対する結果は、致死のリスクとなる線量レベルAの区域の面積が、東京都の11倍となった。国連のデータベースをもとに推定した、当時のウイグルの人口密度と、被災地の面積との掛け算から、致死リスク人口は19万人となった。胎児影響や白血病などの発生のリスクが高まる線量レベルCおよびBの人口は、129万人である。

英国では、98年8月に中国の核実験によるウイグル人の悲惨な死を主題にしたドキュメンタリー「Death on the Silk Road」が作製された。この番組は、欧州圏をはじめ、世界83カ国で放送され、翌年、ローリー・ベック賞を得た。

今月刊行された筆者の科学調査報告『中国の核実験』（医療科学社、2008）は、シルクロードの核の悲劇に対して、最初の科学根拠を与えている。

核爆発災害の調査研究が、被災者医療など現地の救済のためになされるのは、広島・長崎および、米ソの核実験影響調査で明らかである。

ウイグルをはじめシルクロードの核被災者救済のために、中国政府の寛容で前向きな姿勢を願う。